読売 俳壇

矢島 渚男 選

赴任地の祭の役を貰ひけり　町田市　谷川　治

【評】ご職業は何だろう。教師、農協……まさか警官はないか。任地へ着くと早速、祭の係の人に待ってましたとばかり説得され、ひっぱり出された。過疎化、高齢化社会の中でよくわかる。

海亀を帰すひとたび網上げて　大阪市　今井　文雄

【評】砂浜で孵化した小ガメたちが懸命に走って海へ到着すると、網にかかり、数を数えられ、放される。元気で帰っておいで。

曝書する無名兵士の処女句集　さいたま市　与語幸之助

【評】この句集は御遺族もしくは作者自身のものかも知れぬ。戦地での手書きか。大切な一冊。

単線の列車交換青田風　銚子市　日光　正春

舳先立て競い合うごと昆布船　札幌市　武内　政敏

アナログに生きて団扇の風愛す　柏市　藤嶋　務

揚げ雲雀高音のチチチ毛馬堤　大阪市　高橋　良治

薬の日過ぎて洪庵塾を訪ふ　宝塚市　広田　祝世

地図にある村は廃村時鳥　対馬市　神宮　斉之

容赦なくのたうち回るものへ蟻　土浦市　今泉　準一

高野ムツオ 選

萍の行きどころなく盛りあがる　宮崎市　長友　聖次

【評】萍は名の通り、浮遊性の植物。不安定な生き方にも比喩的に用いられる。ここでは小さな溜池あたり。行きどころなく鬱然とひしめき合うさまは、萍の生命力そのもの。

ひやそうめんするするするとするすると　宇部市　伊藤　文策

【評】「する」のくり返しに、ひらがな表記が相乗効果を生んで、次から次へと口に吸い込まれる冷素麺が見えてくる。実に美味そうだ。

石庭の海を渡りて大揚羽　葛城市　二上　三六

【評】水を使わず水を感じさせるのが石庭。突然、石の島々を越え砂の海を渡る揚羽蝶が現れた。「大揚羽」の「大」の効果を味わいたい。

噴水や伸び縮みして揺れ動く　川崎市　芦田　栄司

旋盤の鉄切る匂ひ夕焼雲　横浜市　菅沼　葉二

走ること忘れて久し桜桃忌　長野県　村田　実

蛇消えしあたり時間の止まりをり　北本市　萩原　行博

沖縄忌洞窟を探して草を分け　神奈川県　中島やさか

手の甲の汗見つめつつ台車押す　東京都　斎木百合子

ラフテーの箸に崩るる沖縄忌　長浜市　山口　隆

正木ゆう子 選

夏負や無理やり開くる自動ドア　仙台市　松岡　三男

【評】自動ドアが開かないことはめったに無いが、たまにはある。力まかせに開けようとして、叱られたことも。それと夏負は関係無いようで、関係あるような気がしてくる句。

学校に慣れて「あのね」が増える初夏　相模原市　相模湖福幹

【評】家に帰るなり、「あのね」と学校での出来事を話し始める子。日に日に「あのね」が増えて、「○○ちゃんがね」と、友達も増えてゆく。

釣上げし魚に翼の五島灘　東京都　山口　照男

【評】翼を持つ魚の代表は飛魚だろう。その名は無いので、無季ではあるが、翼を新鮮に感じた事がよく伝わり、地名も生きている。故に戴く。

下闇の奥より漏れ来水の音　浜松市　木通　佳子

誕生日自分のためのハンモック　出雲市　石原　清司

筒鳥や鳴けばりんごの花散りぬ　栃木市　井岡　幸男

ぎしぎしに止まる雀の軽さかな　松山市　高山　洋子

姿見へ齢も見せて夏来る　東京都　神通芙美代

大方は名も知らぬ草引きにけり　茅ヶ崎市　古田　哲弥

もくもくと新芽吹き出し山肥ゆる　福津市　大楠　俊治

小澤 實 選

一点から線に面にと麦刈りぬ　津市　中山　道春

【評】大きな麦畑の刈りはじめから、かなり進んだ状況になるまでの動きを的確に描きとっている。一句が動画のように見えているのが、おもしろいところである。

抜けどすぐ杉菜地獄の底から出　鳥取県　垰田小夜子

【評】杉菜を抜いても抜いても、すぐに生えて来てしまう。杉菜をここから憎む思いが「地獄の底から出」という表現に託されている。

ふりかぶり投ぐる投手や青嵐　白井市　毘舎利道弘

【評】木々の緑が揺れる、強い風の中、本格的な野球の投手が投げ続けている。練習であろうが、青嵐のおかげで、投げた球は加速しそうだ。

日盛や深閑として犬の舌　川越市　益子さとし

ニースよりモナコへ行かんサングラス　東京都　小島　信子

芯までも余すことなくキャベツ食ふ　佐倉市　小川恵美子

鵜の咽が魚の形にふくらめる　横浜市　我妻　幸男

中指の大きペン胼胝撫でて梅雨　武蔵野市　相坂　康

早苗投ぐる受くる阿吽の呼吸かな　さいたま市　秋葉　武彦

夏草やレール北へとあをびかり　日立市　菊池　風峰

短歌あれこれ　錦見映理子（歌人・小説家）

誕生日

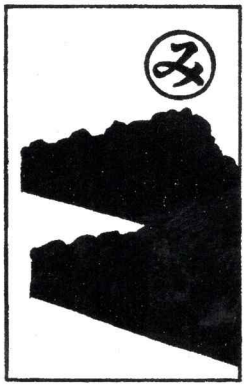
七年前、たまたま見たテレビ番組がきっかけで、平手友梨奈さんのファンになった。その頃の私は、小説の新人賞をもらってデビュー作が世に出たばかり。SNSに平手さんのことを書いていたら、小説についてのみならず、平手さんについてもインタビューを受けることになった。中年の女性作家が、若者に人気の女性アイドル（当時）のファンを公言しているのが珍しかったのだろう。

インタビューはニュースサイトにも上がり、後にそれがきっかけで、アイドルに短歌を指導するラジオ番組にも出演するようになった。

光のち雷鳴　あなたの手が夢にリボンをほどく夏のあけがた

錦見映理子

これは平手さんの誕生日の六月二十五日に出演した番組のために作った、お祝いの歌だ。頭韻をつなげると「ひらてゆりな」になる。短歌はプレゼントにもなるのだ。



題字デザイン・イラスト　福田美蘭